

## 地域連携推進会議 議事録

日時	令和7年8月5日（火）14:00～16:00 百花園宮前ロッヂ
参加者	<p>【地域連携推進員】          平井 壽明様（利用者代表） 三浦 俊文様（利用者家族）          一関 寿様（楠自治会長） 赤塚 めぐみ様（常葉大学保育学部准教授）          萩原 秀昭様（清水区障がい者相談支援センターそら）</p> <p>【施設出席者】          檜垣 智郎（施設長） 浦山 貴範（サービス管理責任者）          井上 佳純（施設相談員） 小菅 翔太（地域生活支援ネットワークまいむまいむ）</p>
内容	<p>【開会】          はじめに、会議の目的について説明しました。          今回は、「意思決定支援」を基本に、地域での暮らしをよりよくするために、地域の皆様とどうつながっていけるかを考える機会とし、地域移行や関係づくりの大切さを参加者の皆さんと共有しました。</p> <p>【施設長あいさつ】          施設長より、宮前ロッヂがこれからも地域の一員として、日ごろから顔の見える関係を大切にし、有事の際にも安心して頼っていただけるような施設でありたいという思いが語られました。</p> <p>【出席者紹介】  <b>平井 壽明様</b>          熱海より入所。以前は家族とヘルパーの支援を受けながら在宅で生活。入所後は大学の学食での食事、小学校との交流などを通じて、地域とのつながりを感じている。</p> <p><b>三浦 俊文様</b>          お兄様が宮前ロッヂに入所。在宅介護の経験から、在宅生活の大変さや、施設の大切さを実感している。</p> <p><b>一関 寿様</b>          秋田県出身。定年後に楠自治会長に就任し、現在は宮前ロッヂ前にある自治会館の建て替えに取り組んでいる。長男は市役所で福祉関係の業務を担当しており、花園会についても以前から関心を持っていた。</p> <p><b>赤塚 めぐみ様</b>          常葉大学保育学部の准教授。授業の一環で学生を連れて施設でレクリエーションを実施しており、子どもから高齢者まで、幅広い世代との関わりを大切にしている。</p> <p><b>萩原 秀昭様</b>          清水区障がい者相談支援センターそら副理事長。相談支援専門員として、福祉や介護のサービスをつなぐ役割を担っている。</p>

### 【施設内見学】

1階の入所相談、計画相談、居宅介護事務所、通所・放課後等デイサービスのフロア、2階の入所フロアについてご案内しました。

実際の活動の様子や設備をご覧いただき、現場の雰囲気を感じていただきました。

### 【施設概要説明】

百花園宮前ロッヂの概要やこれまでの取り組みについてご説明しました(※別紙資料参照)。

あわせて、令和7年10月に開所予定の「百花園下川原ロッヂ」についてもご紹介し、制度の変化に応じた施設運営の方向性や、小規模で地域に根差した支援のあり方についてお話をしました。

### 【意見交換のまとめ】

#### ◆ 地域とのつながり・交流について

利用者や家族から、「もっと地域と関わりたい」という声が多く聞かれた(平井様)。

小学校訪問などの体験が、家族の関心や理解にもつながった(平井様)。

地域の皆様に向けて、施設の取り組みや情報を発信することで、理解やつながりが深まることが期待される(一関様)。

#### ◆ 家族・きょうだいの思いと支援の必要性

障害について「話してはいけない」と感じていたが、周囲のオープンな姿勢から意識が変わった(三浦様)。

家族・きょうだいならではの悩みがある中で、施設が大きな支えとなっている(三浦様)。

#### ◆ 地域連携と防災への活用

災害時の連携やAEDの貸出、子どもたちを守る取り組みなど、地域との協力体制づくりが大切(一関様)。

防災訓練をゲーム形式にするなど、子どもから大人まで楽しめる工夫があると参加しやすくなる(赤塚様)。

#### ◆ 教育・人材育成の視点

福祉の現場を学生が体験することで、「子どもから大人へ」の成長を支える視点や、個性を大切にする姿勢を学ぶ機会になる(赤塚様)。

#### ◆ 在宅支援と人材不足

地域で暮らし続けるための支援体制が必要とされているが、ヘルパーなどの人材不足が大きな課題(萩原様)。

利用者様本人の思いを尊重しながら、在宅を支える仕組みや地域資源の整備が急がれいる(萩原様)。

### 【施設としての所感と今後の方向性】

今回の会議を通して、利用者やご家族、地域の方々、福祉の専門職など、それぞれの立場から大切なお話をたくさんいただきました。

とくに、「もっと地域と関わりたい」という声や、「施設のことを地域にもっと知ってもらいたい」といった意見は、私たちの今後の取り組みの方向性を考えるうえで、とても大きなヒントとなつた。

また、障害や暮らしへの向き合い方、家族の思い、人材不足といった課題についても、現場の声として改めて受け止めた。

これらの意見をもとに、百花園宮前ロッヂでは今後、以下のような取り組みを大切にしたいと考えている。

- ・学校や自治会との連携を深め、地域との自然な交流の場を広げていくこと
- ・見学や情報発信を通じて、施設のことをより身近に感じてもらえるよう工夫すること
- ・家族やきょうだいも含めた支援のあり方を見直していくこと
- ・学生との関わりを続け、福祉の現場を体験できる学びの場を提供すること
- ・地域の防災や災害時支援に協力しながら、安心できるつながりをつくっていくこと
- ・他機関との連携を通じて、地域での暮らしを支える体制を一緒に整えていくこと

今後も、利用者一人ひとりの思いや願いに寄り添いながら、地域の皆さんとつながり合えるような施設づくりを続けていきたい。